



## 練馬区は野菜づくりの学びの場

金丸弘美  
食総合プロデューサー

東京都練馬区で農家が野菜づくりを教える体験農園をいちばん最初に始めた南大泉の加藤義松さんの「緑と農の体験塾」を訪ねた。西武池袋線保谷駅から徒歩10分ほどのところにある。

「20年ぶりだね」と加藤さん。ご夫妻で喜んで迎えてくださった。

知り合いの女性の方が興味があるというので、一緒に誘って加藤農園に伺ったら「参加したい」と、中野区からママ友と毎週通うことに。3月の訪問から5月に再び訪ねたら、畑が緑でいっぱい。爽やかで目の保養にもなる。彼女から採れたてほうれん草を「サラダにどうぞ」をいただく。



サポーターにアドバイスを受けて野菜づくりをする中野からのママさん

加藤さんの奥さんは「久しぶり。会えて嬉しい」と、お土産にとミニトマトを渡された。聞けば近くの畑で息子さんが農業を始めたそうで息子さんの栽培されたトマトだった。おいしかったの言えなかった。うまでもない。

加藤さんが体験塾を始めたのは1996年。同年、私は、アトピーが子供たちに多いということを知り、アトピーの勉強会、専門のお医者さん、子供たちの食育の取り組みなどを調べて本にしたときだった。アトピーの要因が、環境や偏った食生活、生活のリズムなどに多く起因していることを知って、そこから、美味しい新鮮な野菜を栽培している農家の取材が始まった。同時に自転車を買って都内の農家を巡り紹介することを始めた。そんなとき出会ったのが加藤義松さんだった。

練馬区には区民農園が多くある。現在、休息施設のない農園22農園、総区画数1679区画（1区画15㎡、使用料月400円）と休息施設のある農園5農園、総区画数246区画（1区画30㎡、使用料月1600円）がある。

野菜づくりはなかなかうまくいかないことも多い。そんな様子を見ていた加藤さんは区に提案をして農家が自らの畑を開放し、種、肥料、道具をすべて揃え、畑も整え、農家が野菜づくりを教えることを始めた。この仕組みは評判となり現在練馬区内で18か所。都内に100か所、全国にはおよそ500か所までに広がったというから驚きだ。そのことは今回の再訪で初めて知った。加藤さんの農園は大きく3つの区画に分かれている。

- (1) 「はたけ倶楽部」。小さいお子さん、高齢者の方向け。小さいものはプランターで、その他は畑で作る。12区画。参加費は年間3万8000円。
- (2) 「アシスト農園」。多忙で畑に来れなかったりする方のためのアシスト付き農園。12区画。1区画15㎡。年間で30種類を栽培。参加費は5万円。
- (3) 「農業体験」。講習付きで野菜づくりをするもの。146区画。1区画30㎡。参加費5万円（練馬区民は区民補助があり3万8000円）。

畑には駐車スペースがあり自転車が50台おけるようにもなっている。トイレもある。講習は金曜日、日曜日が10時、土曜日が10時と14時にある。

参加者には事前に半年間の作付け計画予定や、注意事項、栽培のポイントなどの資料が配布される。講習では、その週に行う準備、種や肥料などの説明が30分ほど。畑の隅にある屋根と机と長椅子が用意された場所で行われ、それから、めいめいの畑の場所で、教わったとおりの作業を行う。

このときの加藤さんのアドバイスがこまやか。手をとって足をとりのだ。人気がうなずける。畑で育ったサポーターの方もいて、質問すれば、すぐに応えてもらえるようにもなっていた。

加藤さんと改めて会おうと思ったのは、国土交通省の都市農業のセミナーがきっかけだった。都市の農業の推進に力を入れているという発表があったからだ。

コロナのなかで、空気のいい場所、密にならない、緑の空間があるということ。都市の災害の避難場所として、なにより市民のコミュニケーションと癒しの場としても必要のことから国の都市計画にも政策が盛り込まれたと発表された。セミナーでも解説をされた国土交通省の方が、コロナで都市の農業は参加者が増えたと話があった。そこで直接、加藤さんに会ってみようと思ったわけだ。そして



「農の学校」で受講生に指導をする加藤義松さん（写真右端）

練馬区役所や農林水産省も訪ねた。

すると練馬区の体験農園は、コロナ以降、参加者が増えているとのこと。区も農家の詳細なマップを作成したり、マルシェの開催の後押しなどに、実に細やかなサポートがされていることも知った。今回、さらに驚いたのが、2015年から区で「農の学校」が作られていたこと。場所は練馬区高松で緑も多く景観も素晴らしい。農地面積約3700㎡。都営大江戸線練馬春日町駅から徒歩10分にある。このあたり一帯が都指定の「農の風景育成地区」となっている。

農家の人手不足、一般区民の方で農業に関わりたいと言う方も多いためから学校は設けられた。定員15名。初級、中級、上級とあり、進級制度。年間20日間の講義。受講料は1万円。卒業生は、すでに112名を超え、農家のサポーターとして活動している方が多くいる。

加藤さんは「農の学校」の講師もされているのだった。